



がどうだより

吟道賀堂流総本部 会報
第10号 令和7年10月1日
発行 吟道賀堂流総本部
会長 磯部賀堂

第33回吟士権者決定大会開催(姫路市花の北市民広場 大ホール)

第33回吟士権者決定大会は、令和7年9月21日(日)に、昨年に引き続き、姫路市花の北市民広場大ホールで開催された。

前年度優勝者吟詠に引き続き、競吟第一部、第二部、第四部、招待吟詠の少年：桑名杏実さん、高年齢者：彦坂賀清月さん、岸田賀侷美さんの吟をはさんで、第三部、第五部、第三部上位5人による決勝吟詠が行われ、各部の優勝者は以下の通りでした。

第一部：内海由美子(近)、第二部：小西正美(近)、第三部：高井賀紫康(近)、第五部：河村悦子(近)

合吟 第四部：内海いちゑ、進藤光子、内海由美子、吉田明美、宮崎さゆり(近)、の皆さんでした。

おめでとうございます。三本部からの出吟者、役員等を含め約200名の参加者であった。

(事業部)



吟道賀堂流の歴史(10)

財団日本吟剣詩舞振興会「漢詩集」の読み・アクセントを準用した定本・教本を平成元年から順次発行、この教本の普及と吟法の統一、会員の親睦を図るために参議会主催で平成2年に第1回吟士権大会を開催、組織面でも各地の本部を統括し、交流を図り事業展開を総本部に一本化する検討がなされてきた。

平成8年総本部設立準備委員による本格的な活動を開始、平成9年参議会で総本部設立の会則が承認され、会長に宗家が就任。11月に総本部設立総会が開催されて、会則・吟士権大会の主催・流碑祭後の役員総会開催・賀堂流基金による運営が承認された。副会長には近畿竹内賀孝・山下賀久峰、中国三島賀蓉、神戸井川賀慧、京都千阪賀秀、総務部長に中国梅田賀久秀、普及指導部長に中国藤河賀久清、事業部長に近畿魚住賀久が就任した。

総本部設立により近畿総本部は近畿本部、京都総本部は京都本部に改称。

平成10年には総本部会旗を制定し、7月に入魂式を行うも、9月16日二代宗家が急逝。

平成11年9月に二代宗家を偲ぶ吟詠大会を開催、10月に長男が三代宗家を襲名し総本部会長に就任。(磯部賀堂)



吟と健康(6) *** 腹筋 ***

きくち体操創始者、菊池和子さん(91歳)は、YouTube“菊池和子先生の一日はこうして始まる！”の中で、「腹筋は命です」この大きな筋肉、腹筋が弱ると腰も支えられないし、頭や腕の重さも支えられない、足も自由に動かなくなるくらい大切な筋肉です。毎日やりましょうと！

朝、目覚めてすぐ立ち上がり行動することによる転倒の危険から、足裏、足指、足首マッサージ後、腹筋です。臀部を引き締めながら、頭を持ち上げるとわりと楽な運動で、高齢でも続けられそう。幸い私達は詩吟のお陰で、吟じる度に自然に腹筋が鍛えられている！ 詩吟の素晴らしさを再認識！ また「ひざをしっかりと閉じて座るだけで体はよみがえる！」との見出しに“はっ”とする。椅子に座る時間の中で何秒か、しっかりと膝を閉じてみた。すると、背筋が伸び、お腹、ふくらぎ、太腿もかたくなっている。日常で気づいた時に取り入れれば、健康維持の一助となるでしょう。(村山賀聖啓)



全国吟詠コンクール 近畿決勝大会・全国決勝大会



全国吟詠コンクールの近畿大会は、8月11日(祝)に大東市立市民会館で開催されました。賀堂流からは、幼年の部で、高橋拓来君(京都)が1位に、少年の部では、木山咲良さん(近畿)が1位、横山百音さん(近畿)が2位に、壮年二部で福井幸子さん(近畿)、三部で吉田秋良さん(近畿)が入賞しました。

高橋拓来君、木山咲良さん、横山百音さんは、9月15日(祝)に東京で開催の全国吟詠コンクール決勝大会へ出場し、木山咲良さんが5位に入賞しました。



受賞する木山さん

「名流の足跡」記事配布について

公益財団法人 日本吟剣詩舞道振興会の月刊誌「吟剣詩舞」に、令和5年7月号から連載記事として「吟剣詩舞界を支えてきた名流の足跡」の掲載が始まった。

本年4月、編集者の田久保雅己氏から宗家に流祖の取材の申し入れがあり、5月21日 田久保氏が、近畿本部会館に取材に訪れ、本年8月号と9月号に前後編として掲載されました。その8月号と9月号に掲載された内容を両面印刷して会員の皆様に配布します。



田久保氏

近畿本部 ***令和7年度「少年発表会と親睦の集い」***

6月22日(日)午後1時から、飾磨市民センター大ホールにおいて、「少年発表会と親睦の集い」が開催されました。少年吟詠、一般吟詠、幹部の先生の賛助吟詠に65名の会員が出吟し、また、11名の少年会員のご家族、12名の会員が見学来場されました。当初8名の少年会員の申し込みがありましたが、学校行事等の関係で当日は5名の出吟となりました。最初に、少年会員達の合吟に続き、桑名一颯君(5歳)の「兎と亀」、青木花さん(5歳)の「山行同志に示す」、福田絢子さん(小2)の「富士山」、水井湊君(小2)の「楓橋夜泊」、最後は桑名杏実さん(小2)の「早に白帝城を発す」と



それぞれ立派な吟を披露してくれました。また、青木花さんが、「青葉の笛」を祖母の角野賀美星さんの吟で扇舞を可愛く舞ってくれました。



少年会員に対して、会長から褒章、宗家から記念品の授与の後、会長、理事長、事務局長他による児童劇「金の斧吟の斧」を、会員吟詠による独吟、及び合吟、幹部役員による賛助吟詠と進み、会長、宗家の吟詠、最後に理事長による挨拶をもって、午後4時30分に終了しました。

当日の舞台発表の内容をYouTubeに上げていますので、右のQRコードをスマホのカメラでかざすと、出てくる文字をタップして、ビデオを見て下さい。(企画室)



少年と親睦の集い「金の斧吟の斧」

中国本部 ***今様及び構成詩の朗詠研修について***

「タア～ン・タン・タン タア～ン・タン・タン」と机をたたく、テンポの良い今様の拍子が教室中に響き渡る。さる6月14日、広島安芸区民文化センターにおいて、総本部普及指導部長の小川賀淳豊先生をお迎えして、今様及び構成詩の朗詠特別研修が実施された。小川先生の声が一段と高くなるにつれて、「律(一)と(二)」の教科書を片手に、女性軍と男性軍に分かれて、黒田節調に似た朗詠がこだまする。今様の本格的朗詠講義は、中国本部としては初めてである。漢詩・短歌・俳句に比べて、今様の朗詠は少ない。黒田節と違い、重厚且つ、優雅さが必要であると、小川先生は強調される。中国本部の11月の「発表会」では、各会から今様構成詩が期待される。地域の敬老文化祭には喜ばれる吟詠だと思ふ。



(宅重賀清輝)

京都本部 ***長岡京市「公サ達まつり」に出演しました***

5月25日(日)、長岡京市中央公民館で開かれた『芸能発表』で、長岡京吟詠会も25分間の舞台発表を致しました。この催しは、公民館を拠点にサークル活動をされている人たちの発表や交流の場、また市民の方に見ていただいて会員を増やしたいとの願いも込められています。構成とナレーションは横山賀秀邦さんが担当、一人でも会員が増えることを願って発表しました。静まり返る会場で厳かに吟じた25分間は、観客の皆さんを漢詩の世界にいざない、時が止まったような感動を生んだと、好評をいただきました。殊に『元二の安西に使いするを送る』の通常の絶句のあとに繰り返す“なからん、なからん…”が、この詩の命ともいえるもので、尻枝(男性)と横山(女性)の掛け合いにより、永遠の別れになるかもしれない情感が会場一杯にしみわたり、会場で聞く人の胸に迫り、とても感動的でした。

演目は、漢詩『元西の安西に使いするを送る』(尻枝賀秀道と横山賀秀邦)、構成詩『静御前』(福嶋堂秀伶と市丸賀秀知)、和歌『たはむれに』(橋本賀秀司)、漢詩『楓橋夜泊』(市丸賀秀知)でした。(本庄賀秀峰)



吟詠広島友の会

吟詠広島友の会 会長を務めさせて頂いております、新内賀久隆と申します。初代会長 實成賀晴先生より二代目西田賀周鳳先生、そして三代目を私が引き継がせて頂きました。



私事 吟詠を始めてもうすぐ半世紀が経とうとしています。以前は、芸南吟詠会の会員で小学校等に出向きシンセサイザーや尺八の伴奏で詩吟を発表したり、剣詩舞も披露しておりましたが、昨今においては会員の高齢化、減少が進み活動もままならず、寂しい思いをしておる次第です。しかしながら、これまでやってきたことを無駄にせぬよう、これからは吟詠の普及・発展に精進してまいる所存です。素晴らしい吟詠を後世に引き継ぐ為にも、若い人の意見を聞き柔軟な考え方も取り入れて行かなければならないと思うところであります。(新内賀久隆)



賀堂流ホームページ: <https://gadou.info>
←スマホで賀堂流ホームページ及びInstagramへ

担当 吉永賀鈴、片岡賀弘蒼、村山賀聖蓉
連絡先 吉永賀鈴 TEL:079-298-5107
E-mail: garei_yoshi@yahoo.co.jp